

熊本地震から7カ月。今年も2カ月を切り、年賀状の準備を始める時期となった。ただ、地震で被災した家庭も多く、単純に「happy」「おめでとう」でいいのかなど、文言やデザインなどを悩む人は少なくないはずだ。そこで、マナーとデザインの専門家に、それぞれアドバイスしてもらいました。また、2011年の東日本大震災を経験した仙台市の方たちに、震災翌年の年賀状の出し方などを振り返ってもらいました。(野田一登)

崇城大芸術学部教授

岩上 孝二さん



短い言葉でポスター風

「デザイン」

今回、熊本から年賀状を出す人は、地震後に物心面で応援してもらった方たちへの「お礼」が多いのではないだろうか。一方でこれからは「元氣になります」など、将来へ向け「宣言」をするケースもあるでしょう。

そこで、年賀状のデザインとして、身近な熊本の風景や日常を写した写真を載せ、短くて分かりやすいキーワードを添えるというフオーマット(型)＝左下写真＝を提案してみました。簡単にいえば、メッセージが瞬時に伝わるポスターのイメージです。

キーワードは「よかとこ」「がんばる」「魅る」の三つを考えました。

「よかとこ」は、観光名所だけではなく、身近な「名所」を県外の方たちに紹介し、熊本へ来て

らうきつけにする。

「がんばる」は、子どもたちが遊んでいた、もちつきしていたりなど日々の生活を切り取り「がんばる」気持ちを伝える。

「魅る」は、熊本城や清正公像など力強い熊本をイメージさせる写真を添えて「必ず復興する」という願いを込める。

ただ、被災の度合いや生活の現状は人によって違います。三つのキーワードが当てはまらない方もいらっしゃるでしょう。肝心なのは、それぞれの人ができる範囲で前向きなメッセージを伝えることではないでしょうか。

◇ ◇

◇ いわがみ・こうじ 1951年生まれ、八代市出身。研究テーマはグラフィックデザインなど。地域ブランドデザイン研究所(中央区)代表。日本グラフィックデザイナー協会本部運営委員。同協会新人賞など受賞多数。

がんばる、くまもと

平成29年 元旦



キーワード添えて